

氏名	今町 克枝
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第322号
学位授与年月日	平成28年10月5日
審査委員	主査 教授 廣田 秋彦
	副査 教授 津本 周作
	副査 教授 猪俣 泰典

論文審査の結果の要旨

正確な眼圧測定は眼科診療特に緑内障の診断・治療に必須であるが、中心角膜厚により眼圧の計測値は影響を受けることが知られている。そこで、中心角膜厚の正確な計測にあたって、機種ごとの計測値の差、特にこれまで報告の無い、左右差の有無について検討した。白内障術前検査目的で両眼の角膜内皮検査を受けた679例1358眼を対象に、角膜内皮計を用いて中心角膜厚を計測しメーカーによる計測値の差と左右差の有無を調査した結果では、メーカーにより測定値が異なり、全てのメーカーで左右差がみられることがわかった。一方、島根大学付属病院緑内障外来を受診した108例216眼の両眼角膜厚を角膜内皮計、超音波パキメーター、回転式シャインプルーフカメラの3機種で計測した結果では、左右眼ともシャインプルーフカメラが有意差をもって厚く計測されたが、角膜内皮計と超音波パキメーターの計測値に差はみられなかった。また角膜内皮計でのみ有意な左右差が認められた。我々は、各機種の測定原理から、正面から計測するシャインプルーフカメラと超音波パキメーターでは左右差がなく、角膜内皮計では計測光が被験者の側方から入射するため、角膜厚の薄い耳側から入射する時より、角膜厚の厚い鼻側から入射する時の方が厚く計測され、入射角が側方に傾くほど左右差が大きく測定されると考えた。左右差のメーカーによる差やその大きさは、それぞれの機種の入射光の方向と入射角の大小に良く一致しており、我々の左右差が生じる仮説を裏付けるものと考えられる。本研究は、臨床の場で角膜厚を評価する際には、それぞれの機種の特性を理解した上で使用することの重要性を指摘するものであり、博士(医学)の学位授与に値すると判断した。